

翻訳対象の分類にあたっての考慮点（案）

まずは翻訳対象をカテゴライズする上での観点整理が必要。たとえば以下。

翻訳対象の

- ① 原作者の独自性の高さ
- ② 翻訳量の多さ
- ③ 更新の頻度
- ④ デザイン性の高さ
- ⑤ 専門性の高さ
- ⑥ 電子フォーマット（ファイル形式）

翻訳対象の分類（案）：前頁①～③で分類

前頁①～③の観点で翻訳事例（となりそうなもの）を分類、マッピングしてみる。グルーピングもできるかも

		①原作者の独自性が高い (主張している、主観的意見など)		②原作者の独自性が低い (客観的、技術的説明など)	
		②翻訳量		②翻訳量	
		多 (例えば20頁+)	少 (例えば20頁-)	多 (例えば20頁+)	少 (例えば20頁-)
③更新頻度	多い (例えば定期更新)	たぶんない	たぶんない	<ul style="list-style-type: none">・オンラインマニュアル 例 OpenStackマニュアル・トレーニングスライド 例 OpenChain Curriculum (Powerpoint 90枚弱)	<ul style="list-style-type: none">・各種仕様書 例：OpenChain Spec (Word 15頁ぐらい)
	少ない (例えば1回のみ)	<ul style="list-style-type: none">・動画スクリプト・Whitepaper/書籍 例①「Open Source Compliance for the Enterprise」 例②「Building a Business on Open Source」	<ul style="list-style-type: none">・Whitepaper/書籍 例「How to Build Open Source Competency in Your Company」	<ul style="list-style-type: none">・技術的White paper 例「Guides for the Enterprise」	<ul style="list-style-type: none">・ポータルサイト・プレスリリース・ブログなど

分類（もしくはグループ）ごとのプロセス（イメージ）

翻訳プロジェクト個別のプロセスと横断的なプロセス両方の観点がありそう

